



●小笠原流流鏑馬と礼法

甲斐国を席卷した武田信時の流れを汲む武田氏は滅びてしまいました。しかし、甲斐源氏の伝統は小笠原氏の系統が現在まで守り伝えています。

源平合戦後、小笠原氏は信濃守を歴任すると共に、京都、阿波（徳島県）、石見（島根県）、若狭（福井県）、陸奥（東北）などに分派。鎌倉時代—南北朝時代—戦国時代を通して権力争いに巻き込まれ続け、やがて小笠原氏の嫡流は武田信玄の時代に信濃を追われて各地を転々とする一方、分派していた幾つかの小笠原氏は、江戸時代以降も存続しました。

時代の波に揉まれた小笠原氏でしたが、彼等は始祖・長清以降、清和源氏に伝わる弓馬の作法を脈々と受け継ぎます。この系統は今も「小笠原流流鏑馬」として残っており、その実演は南アルプス市や鶴岡八幡宮（神奈川県）などで見ることができます。



小笠原流流鏑馬
(南アルプス市教育委員会提供)

また、並行して清和源氏の伝統に加えて諸家の作法を取り込み、中世武家の礼法を大成しました。江戸時代以降、この礼法は「小笠原流」として庶民にまで浸透し、現代も礼法の代名詞として受け継がれています。なお、小笠原氏の祖である長清は、弟の光行（南部氏の祖）と共に法善寺（南アルプス市）の寺域で養育されました。したがって、南アルプス市は小笠原流礼法の聖地ともいえます。現在も、南アルプス市では小笠原流礼法の体験会などが開かれています。

「流鏑馬」と「小笠原流礼法」。これらのルーツが甲斐源氏にあることを知ると、彼らの営みがより身近に感じられるかもしれません。

主な参考資料/山梨県教育委員会学術文化財課『山梨県歴史の道ガイドブック』（1998年）
山梨県教育委員会文化課『山梨県歴史の道調査報告書 第1集—19集』（1984年—1997年）
国史大辞典編集委員会『国史大辞典』吉川弘文館（1979年—1997年）
中沢厚『石にやどるもの—甲斐の石神と石仏』平凡社（1988年）
磯貝正義『図説 山梨県の歴史』河出書房新社（1990年）
山梨県立博物館『甲斐源氏 列島を駆ける武士団』（2010年）
秋山敬、笹本正治、飯田文弥、齋藤康彦『山梨県の歴史』山川出版社（2010年）
山梨県立博物館『誕生500年 武田信玄の生涯』（2021年）

編集協力/山梨県立博物館



第2編

「やまなし歴史の道ツーリズム事業」では、『山梨県歴史の道ガイドブック』で紹介された22道のうち5つの古道について、それぞれの道が伝承し育ててきた固有の魅力をテーマに据え、実際にたどるモデルコースを設定しました。風景や寺社などを見て回るだけでなく、当時の道を歩いた人々の気持ちを想像したり、「もの」や「ひと」が行き交い生まれた痕跡や、伝承された逸話を聞いたりしながら、歴史の道を探訪し、語り合う。このように物語を知り、学び、楽しむことが「やまなし歴史の道ツーリズム」の醍醐味です。

本編では、5つの道ごとに設定したモデルコースと、資源を例示しました。